



正木小だより

令和6年8月30日

# まさき

## 日々に感謝の気持ちを

夏休みが終わりました。前期の後半が8月26日から始まりました。これから、前期の終業式（10月11日）までの期間が一つの区切りとなります。

夏休みを終えた子どもたちは、学校生活を元気に送っています。特に、この夏は、フランスで、パリオリンピックが開催され、日本選手団として合計20個の金メダルを獲得するなど、日本中に大きな感動の渦を巻き起こしました。また、改めて世界には様々な国があることが分かりました。

夏休み中には正木町内で、地域の方によるお祭りが各地で開催され、子どもたちは楽しそうにお祭りに参加していました。お祭りで、かき氷を食べたり、綿菓子を食べたりする子、太鼓や盆踊りに参加する子など、地域の方と楽しい時間を過ごしている姿が見られました。そうした子どもたちの姿を見て、正木町の地域のつながりのよさを実感しました。



(行燈の絵表彰式の様子)

本校の教育目標は、「夢やめあてに向かって 仲間とともに 進み続ける子」です。パリオリンピックに出場し、やり投げで金メダルを獲得した北口榛花選手は、大学1年生の時に肘を故障し、成績が低迷した時期があったそうです。その苦境を脱しようと、大学3年生の時に、強豪国チェコスロバキアのコーチに指導を受けたいと直談判して、現在では同国を拠点に練習を重ねているそうです。

(日本経済新聞8月12日25面の記事参考)

本校では昨年度に引き続き、地域の職業人を講師にお招きして「生き方教室」を11月に開催します。大人から、夢やめあてをもつことの大切さを感じ取ってほしいと思っています。何より、夢は自分自身を突き動かす原動力になります。めあては、毎日の行動の指針になります。私自身も、夢をもって、めあてをもってこれからも歩み続けたいと思っています。ご家庭でも、お子さんの夢やめあてについて話題にしていいただければ幸いです。毎日に感謝の気持ちを込めて。8月からもよろしくお願ひします。

校長 花村伸二